

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

秋田県 由利本荘市立大内中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年11月16日（金）

■ク ラ ス：2年A組（24名）、2年B組（24名）

■オリンピアン：松村 亜矢子 先生（水泳・シンクロナイズドスイミング ※現：水泳・アーティスティックスイミング）



■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、運動の時間は「体を動かしながら、頭も同時に使う」「それぞれの楽しみ方を見つけ、思い切り楽しむ」「班毎にチームワークを発揮して1つになる」ことを意識して取り組んでほしいと伝える。
- ・準備体操として、ストレッチ等を行った後、三目並べを全3回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・ダンスを4班毎に課題曲に合わせて発表。楽しみ度4点、班の一体感3点、全力度3点、合計10点で採点する。

4. まとめ



- ・冒頭で伝えた約束を実践できたかを確認。座学の時間は、松村先生がオリンピックに出場するまでに意識しながら取り組んできたことを交えながら、オリンピックバリューについて一緒に考えようと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックシンボルの意味について説明し、オリンピックに出場するまでにどのようにオリンピックバリューを体現してきたか松村先生の経験を伝える。
- ・松村先生にとってオリンピックバリューとしてエクセレンスは「卓越、ベストを尽くす、努力する、全力、諦めない」、フレンドシップは「友情、仲間、チームワーク、協力、信頼、絆、お互いを理解する、コミュニケーション」、リスペクトは「敬意/尊重、感謝、尊敬、憧れ、ルールを守る、フェアプレー」と説明。

3. グループワーク



- 発問：夢や目標を考え、それを達成するために必要なことをオリンピックバリューにあてはめて考えてみよう。
- 発表：バスケットボール関係の仕事に就くために、頭と体を使って行動する、受験に合格するために諦めず全力で取り組む(エクセレンス)
総体で優勝するためにチームワークを大切にひとつひとつのプレーを大切にする、部活で良い成績を残すために、協力する(フレンドシップ)
検定に合格するために受かった人から学ぶ、甲子園に出場するために、指導者に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・これからの人生の中で、様々な夢や目標を持った時に、達成するためには何をすればいいか、考えるだけでなく実行に移していくことが大切である。実行することでそのやり方が自分に合っているかどうか分かり、合っていないと思えば別のやり方を考えて試してみることができる。立ち止まらず継続することで大きな夢に近づくことができるが、楽しいと思わなければ継続することは難しい。つらい、苦しいと感じた時は、どのようにすれば楽しむことができるか考えて行動を継続してほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年A組



2年B組





■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



■ 修了証贈呈

